

【大人も子どもも動く！そして繋がりをも】

東海村立石神幼稚園 松下 純

I はじめに ～思い～

漠然と保育にとって自然は必要だということは理解していたが言葉では表現できない自分がいた。生き物に対しても何でも捕まえ、飼おうとする幼児に対し「育てられる？」と聞いたり心の中では「死んじゃうから逃がした方ほうがいいのでは」と考えたりすることが多くあった。それは幼児にとってどうなのか…。生き物にとってどうなのか…。葛藤することが多かった。また、保育の中で“持続可能”というキーワードはあまり保育と繋げて考えたことがなかった。

そんな葛藤や疑問を抱きながら今回の研修に参加した。

II ぐうたら村に行ってみて

一言で言うと、自分の“自然”への考え方の甘さを痛感した…。

実際に体を使って森を歩いたり畑仕事をしたりする中で全てのものに命があり、役割がある。そこを理解し意識するかしないかで生活の中の言動が大きく変わってくる。また、“多種多様な生命や物質があり続けること”が土台にあることで自分たちの生活が成り立っていることに気付かされた。自分はどうすればいいのか…。とりあえず自らが動くことで小さくても気付きや疑問、変化が生まれるのではないかと考えた。最初は“必ず子どもと一緒に何かをしなくては”という思いが強かったが、2回目のぐうたら村に行き、“大人が動くことも大切”ということ意識し、保育の中で色々と実践してみることにした。



【葉っぱの裏にも菌糸が！】



【動くことで価値のないものが
価値のあるものに！】

○見えない場所にもスポットを！

目に見える生き物には興味を示し、自らかかわろうとする子どもたち。そこで見えない場所にも意識が向くように意識的に木の板や石を設置し、日頃から子どもと一緒にめくったりどかしたりした。最初はあまり変化のない状況に興味を示さずにいた子どもたち。保育者が継続して気付きを伝えたり一緒に考えたりしていくと、自ら木の板や園庭の丸太をめくる姿が見られるようになってきた。



【土の中や石のすき間の
生き物の動きが見えるように】



【色々な場所を
めくる姿が見られるように】

《 ある日の一コマ 》

男の子が木の板をめくると…

「うわー！これは宝物だねー！」

「ほんとだ！」

そこにはミミズやワラジムシ、モグラの穴がががあった。

言った本人に聞くと

「宝物」⇒「栄養満点」という意味とのこと。

その表現に感動。土の中にも繋がりがあることを
少しずつ感じているからこそその言葉だと感じた。

また、そのミミズは土を柔らかくしていることも
知っていた。



キーワード 「何かいるかな？」⇒「なんかいる！ある！」
「何やってるの？」⇒「そうなんだ！」

○えっ！？すごい！！

園舎裏にあったコンポストを子どもたちから見える場所へと移動した。

移動する際、なんとカブトムシの幼虫を5匹発見！！

「すごーい！なんているの？」

「栄養満点な土だからじゃない？」

そこからカブトムシの幼虫はコンポストの土を使って観察することにした。



【えっ！？なんかいる！！幼虫だ！】



【世話をしたいとのことで
幼虫がいた場所の土を使う】

コンポスト移動後、保育者は毎日水をかけたり混ぜたり、落ち葉をいれたりして意識的にコンポストに触れるようにしていた。その大人の動く姿を見て、子どもたちも雑草や落ち葉を入れるようになった。

ある時、コンポストの中に入った子が

「うわ！ふかふかだ！」

「なんでふかふかなの？」

「落ち葉が土になっているからじゃないの？」

「栄養があるからでしょ」

落ち葉が土になることを感じたり園庭の土との違いを理解したりすることができた。



【“価値のないものが価値のあるものになる”意識のきっかけ作りとして】

⇒絵本「ちきゅうがウンチだらけにならないわけ」

**キーワード 「すごい！なんで？」 ⇒ 「～じゃない？」
「なるほど！」**

IV 最後に ～思い・これから～

最初に書いた葛藤や疑問は今回の研修を通して、自分なりの考えをもつことができたが、その考えが正解ではない。日常の中で「問い」をもち、考え話し合いを重ねていきたい。

持続可能な社会を作るために自分には何ができるか…。私たち保育者が手や体を動かし、自然や暮らしを大切にしながら保育していくことで、持続可能な社会へと繋がっていくのではないか。また、体験を通して、様々な生命や物質が繋がりが合っていることを子どもたちに伝えていくことが大切だと感じた。

今回自分が経験したことはもちろんであるが、たくさんの人との出会いに感謝し、これからも“繋がり”を大切に過ごしていきたい。



キーワード

「大人も子どもも動く！」

「すごい！（感動体験を）」